



九州旅客鉄道株式会社 グリーンボンドフレームワーク

2021 年 2 月

1. はじめに

九州旅客鉄道株式会社(以下、「当社」)は、以下の通り、グリーンボンド・フレームワーク(以下、「本フレームワーク」)を策定しました。本フレームワークは、国際資本市場協会(ICMA)が定めるグリーンボンド原則 2018 及び環境省のグリーンボンドガイドライン(2020 年版)に基づき策定しており、適合性及び本フレームワークの信頼性と環境、社会への効果に対する外部評価(セカンドオピニオン)をサステイナリティクスより取得しております。このフレームワークに基づき、当社はグリーンボンドを発行します。

1.1 発行体概要

当社は、日本国有鉄道の分割民営化によって、1987 年に発足しました。当社グループは、九州全域に鉄道網を有する鉄道事業をコア事業とする企業グループとして、マンション事業や建設事業、船舶事業、ホテル事業、駅ビル事業など、鉄道事業との相乗効果が高い領域を中心にその事業領域を拡大してきました。これからも安全・安心なモビリティサービスの提供を中核に、地域の特性を活かしたまちづくりを通じて、九州の持続的な発展に貢献していきます。

1.2 あるべき姿、おこない

当社グループの社員一人ひとりが常に立ち返るべき拠り所として大切にしてきたことが、「誠実」「成長と進化」「地域を元気に」という 3 つの「おこない」です。私たちは、この「おこない」とともに、未来を見据え、あるべき姿として掲げる「安全とサービスを基盤として九州、日本、そしてアジアの元気をつくる企業グループ」の実現を目指していきます。

1.3 2030 年長期ビジョン

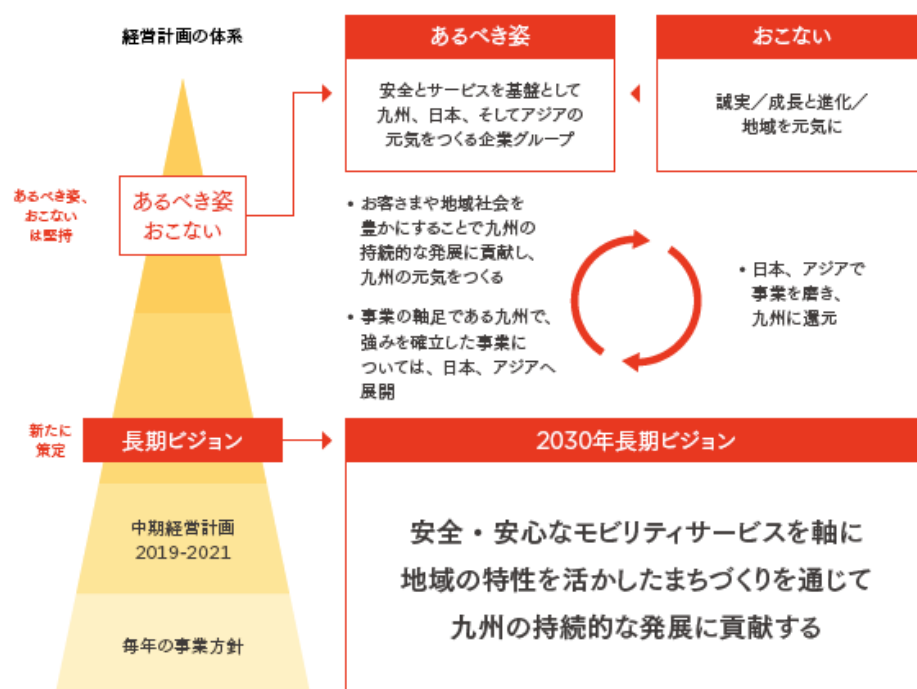
当社グループは、今後の人口減少の進展や自然災害の激甚化、技術革新等、非連続的な将来の経営環境の変化が予想される中で「あるべき姿」を実現するため、「安全・安心なモビリティサービスを軸に地域の特性を活かしたまちづくりを通じて九州の持続的な発展に貢献する」という「2030 年長期ビジョン」を掲げています。

この「2030 年長期ビジョン」のもと、九州のモビリティサービスを担う企業グループとして社会的な役割を担うべく、定時・大量輸送の強みを活かして鉄道を磨きながら、お客さまの利便性を高めるため、

新たな技術の取り込みや他社との連携等を図り、持続可能なモビリティサービスの構築に挑戦してまいります。また、これまで取り組んだ地域の特性を活かしたまちづくりを通じて、当社グループの事業エリアの中心である九州の持続的な発展に貢献してまいります。

「2030 年長期ビジョン」

経営計画の体系と「2030年長期ビジョン」



1.4 マテリアリティ

当社グループでは、マテリアリティを「JR 九州グループが常に考えるべきこと」と定義し、「社会にとっての重要性」と「JR 九州グループにとっての重要性」の観点で議論しています。当社グループでは、「環境問題への対応(気候変動・資源保護)」をマテリアリティの一つとしており、様々な取り組みを行っています。例えば、当社の基幹事業である鉄道は、エネルギー消費効率が良く、環境への負荷が少ない乗り物です。この特性を更に高めるために省エネ型車両の導入などによる効率的なエネルギーの利用に努め、地球温暖化の原因となる CO2 排出量の削減を図っています。

1.5 グリーンボンド発行の意義

当社はグリーンボンド発行を通じ、お客さま、地域のみなさま、株主・投資家、社員をはじめとするステークホルダーに対し、当社グループの「あるべき姿」の実現に向けた ESG 経営への取り組みを発信します。

2. グリーンボンドフレームワーク

本フレームワークは、国際資本市場協会 (ICMA) が定めるグリーンボンド原則 (GBP) 2018 及び環境省のグリーンボンドガイドライン (2020 年版) に適合しており、以下 4 つの柱について定めています。当社は、このフレームワークに基づき、グリーンボンドを発行してまいります。

1. 調達資金の用途
2. プロジェクトの評価と選定のプロセス
3. 調達資金の管理
4. レポーティング

2.1 調達資金の用途

当社により発行されるグリーンボンドの発行総額と同額が新規ファイナンスまたはリファイナンスとして、新規または既存の適格プロジェクトへ充当されます。なお、既存プロジェクトへの充当の場合は、グリーンボンドの発行から 2 年以内に開始、または、環境性能が確認されたプロジェクトとします。

適格プロジェクト

適格プロジェクトは以下の通りです。

GBP カテゴリー	適格プロジェクト/基準		適格プロジェクト例
クリーン輸送	車両	■ 電力を動力とする車両の新造・改造・更新に係る投資	➢ 821 系近郊型交流電車 ➢ 811 系リニューアル ➢ 新幹線車両新製
		■ ハイブリッド車両の新造・改造・更新に係る投資	➢ YC1 系蓄電池搭載型ディーゼルエレクトリック車両
	鉄道関連設備	■ 気候変動の影響による九州の自然災害(豪雨・台風等)の激甚化対策のための鉄道関連設備の改修・更新に係る投資 ■ 鉄道関連設備の維持・改修・更新に係る投資	➢ 九州新幹線防災対策工事 ➢ 運行システム装置老朽取替 ➢ ホームドア整備(下山門～筑前前原) ➢ ATS-DK 地上設備整備(自動列車停止装置) ➢ 木まくらぎの TPC 化
グリーンビルディング		■ 環境建物認証取得予定の駅周辺不動産・自社施設の建設に係る投資 (LEED-BD+C (Building Design and Construction) または LEED-O+M (Building Operations and Maintenance) 認証: Gold 又は	➢ 社員研修センター改築

	Platinum、CASBEE 建築（新築、既存、改修）または CASBEE 不動産認証:A ランク又は S ランク、BELS:4 つ星又は 5 つ星、DBJ Green Building 認証:4 つ星又は 5 つ星）	
--	--	--

2.2 事業の評価と選定のプロセス

本グリーンボンドの調達資金が充当されるプロジェクトは、当社の財務部が、2.1 調達資金の用途にて定める適格基準への適合状況に基づいて、対象候補を特定します。特定された対象候補事業について、当社グループの地球環境保全活動に対する基本理念及び基本方針への整合性の観点から、当社の執行役員財務部長が最終承認を行います。その結果については、当社の代表取締役社長執行役員を委員長とし、各事業部長をメンバーとするエコロジー委員会に報告されます。

なお、すべての適格候補プロジェクトについて、環境・社会的リスク低減のために以下について対応していることを確認します。

- 国もしくは事業実施の所在地の地方自治体にて求められる環境関連法令等の遵守と、必要に応じた環境への影響調査の実施
- 事業実施にあたり地域住民への十分な説明の実施
- 当社安全管理体制に基づく輸送の安全の確保の実施
- 当社グループの地球環境保全活動に対する基本理念・基本方針及び調達の基本方針等のポリシーに沿った資材調達、環境汚染の防止、労働環境・人権への配慮の実施

2.3 調達資金の管理

グリーンボンドとして調達した資金について、当社の財務部が適格プロジェクトへの充当及び管理を行います。財務部は、本フレームワークにて発行されたグリーンボンドの発行額と同額が適格プロジェクトのいずれかに充当されるよう、償還までの間、四半期毎に内部会計システムを用いて、追跡、管理します。なお、内部会計システムでは、適格プロジェクト毎にて充当状況を把握し管理します。

グリーンボンドによる調達資金が適格プロジェクトに充当されるまでの間、または十分な適格プロジェクトがない場合の未充当資金については、現金または現金同等物にて運用し、発行から 2 年程度の間に充当を完了する予定です。

2.4 レポーティング

当社は、適格プロジェクトへの充当状況ならびに環境への効果を、年次で、当社ウェブサイトにて報告します。初回レポートは、グリーンボンド発行から 1 年以内に公表する予定です。

2.4.1 資金充当状況レポート

グリーンボンドにて調達された資金が全額充当されるまでの間、年次で、調達資金の適格プロジェクトへの充当状況に関する以下の項目について、実務上可能な範囲でレポートする予定です。

- 適格プロジェクトの概要
- 適格プロジェクト別での充当額と未充当額
- 未充当額がある場合は、充当予定時期
- 新規ファイナンスとリファイナンスの割合

なお、調達資金の金額が充当された後に大きな資金状況の変化が生じた場合は、適時に開示します。

2.4.2 インパクトレポート

グリーンボンドの発行残高がある限り、適格プロジェクトによる環境への効果に関する以下の項目について、年次にて、実務上可能な範囲でレポートする予定です。また、大きな状況の変化が生じた場合は、適時に開示します。

適格事業		インパクトレポート項目
クリーン輸送		
車両	■ 電力を動力とする車両の新造・改造・更新に係る投資	➤ 適格事業の概要 ➤ 年間の新規導入車両数 ➤ 新型車両導入による年間 CO₂ 排出削減効果
	■ ハイブリッド車両の新造・改造・更新に係る投資	➤ 適格事業の概要 ➤ 年間の新規導入車両数 ➤ 新型車両導入による年間 CO₂ 排出削減効果
鉄道関連設備	■ 気候変動の影響による九州の自然災害(豪雨・台風等)の激甚化対策のための鉄道関連設備の改修・更新に係る投資 ■ 鉄道関連設備の維持・改修・更新に係る投資	➤ 適格事業の概要 ➤ 災害後の被害状況 ➤ 防災対策工事の実施状況 ➤ 鉄道システム維持・改修・更新に係る工事の実施内容 ➤ ホームドア設置状況(設置完了駅数/全駅数) ➤ その他維持・改修・更新を実施した鉄道関連インフラがある場合はその設備の状況
グリーンビルディング		
	■ 環境建物認証取得予定の駅周辺不動産・自社施設の建設に係る投資	➤ 適格事業の概要 ➤ 認証取得状況(取得予定時期・取得した認証レベル) ➤ 環境配慮型建物による年間 CO₂ 排出削減効果、省エネルギー効果

	➤ 新設された建物・まちづくりによる九州を中心とした地域の活性化状況
--	------------------------------------

2.5 外部評価

当社は、サステナリティクスに委託し、本フレームワークの信頼性と環境、社会への効果、グリーンボンド原則 2018 及び環境省のグリーンボンドガイドライン（2020 年版）への適合性について、セカンドパーティ・オピニオンを取得しています。

なお、取得したセカンドパーティ・オピニオンは当社のウェブサイトにて公表しております。

(<https://www.jrkyushu.co.jp/company/ir/library/greenbond/>)